

7587

**株式会社 PALTEK**

JASDAQ

**2014年12月期上半期 決算フォローアップ取材サマリ**

2014年8月6日、株式会社 PALTEK(以下、PALTEK あるいは同社)は 2014年12月期第2四半期累計期間(1月-6月;以下、当上半期)の決算を発表し、同日に決算説明会を開催いたしました。これを受け、同社にフォローアップ取材を行いましたので、その概要をご案内いたします。

**2014年12月期上半期 連結決算概要**

PALTEK の当上半期における企業の設備投資は、雇用環境と賃金の改善や企業収益の増加を背景に持ち直し始めた。エレクトロニクス業界が、民生機器の競争激化により引き続き低迷する一方で、スマートフォンの急速な普及を追い風に、通信キャリアの基地局増設投資は堅調だった。このような環境下、【表1】にあるとおり、当上半期の売上高は前年同期比 53.6%増の約 116 億 77 百万円となり、40 億 74 百万円の増収を達成したが、この大幅増収は主力の半導体事業が牽引した。一方、売上総利益は前年同期比 3.7%増の 16 億 53 百万円に留まり、売上総利益率(以下、粗利率)は前上半期の 21.0%から当上半期は 14.2%(1Q は 14.8%、2Q は 13.6%)に低下した。粗利率の大幅な悪化は、一部には、半導体事業の低マージン製品の売上が大幅に拡大した一方で、高マージンのデザインサービス事業の売上構成比が低下したことによるが、最大の要因としては、仕入値引ドル建債権評価額に対する為替の影響が挙げられる。

**●【表1】 2014年12月期上半期 連結業績概要**

(百万円、%)	13/12月期	14/12月期	13/12月期	14/12月期	13/12月期	14/12月期	前年同期比	
	1Q	1Q	2Q	2Q	上半期	上半期	増減額	増減率
売上高	3,707	5,533	3,894	6,144	7,602	11,677	4,074	53.6%
売上総利益	807	817	787	836	1,594	1,653	58	3.7%
売上総利益率	21.8%	14.8%	20.2%	13.6%	21.0%	14.2%	-	-
販売費及び一般管理費	576	623	572	611	1,148	1,235	86	7.5%
販管費率	15.5%	11.3%	14.7%	10.0%	15.1%	10.6%	-	-
営業利益	231	193	214	224	445	418	△ 27	-6.2%
営業利益率	6.2%	3.5%	5.5%	3.6%	5.9%	3.6%	-	-
経常利益	217	191	232	197	450	389	△ 60	-13.4%
四半期純利益	123	113	135	114	258	228	△ 30	-11.7%

出所：(株) PALTEKの決算説明資料をもとに(株) トリアスにて作成

次頁の【表2】に、1Q、2Q、上半期における前期比較で、為替が売上総利益に及ぼした影響をまとめてみた。PALTEK は海外からの仕入製品に対し、仕入値引ドル建て債権を保有しているため、ドル円レートの変動は当該債権の評価額に影響を及ぼす。前上半期の評価額は 255 百万円のプラス(1Q は 108 百万円、2Q は 147 百万円のそれぞれプラス)であったが、当上半期の評価額は 31 百万円のマイナスとなり、前年同期比

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

286百万円の減少となった。このため、当上半期実績の売上総利益は前年同期比 3.7%増にとどまったが、為替の影響を除いた売上総利益の実質伸び率は前年同期比 25.8%増となった。公表の粗利率は 6.8 ポイントの悪化となったが、調整後粗利率は 3.2 ポイントの低下にとどまり、残りの 3.6 ポイントの低下、すなわち粗利率の最大の悪化要因は、為替の影響だったことがわかる。

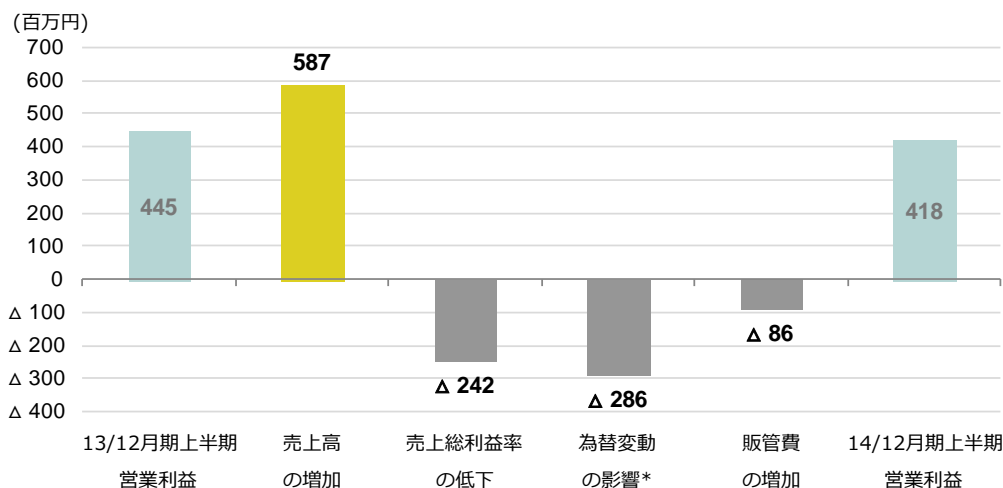
●【表 2】 売上総利益に係る為替変動の影響

(百万円、%)	13/12月期	14/12月期	13/12月期	14/12月期	13/12月期	14/12月期	前年同期比	
	1Q	1Q	2Q	2Q	上半期	上半期	増減額	増減率
売上総利益	807	817	787	836	1,594	1,653	58	3.7%
粗利率	21.8%	14.8%	20.2%	13.6%	21.0%	14.2%	-	-
(うち為替の影響額)	108	△ 14	147	△ 16	255	△ 31	△ 286	-
売上総利益 (為替の影響を排除)	699	831	640	852	1,339	1,684	345	25.8%
調整後粗利率 (為替の影響を排除)	18.9%	15.0%	16.4%	13.9%	17.6%	14.4%	-	-

出所：(株) PALTEKの決算説明資料をもとに(株) トリアスにて作成

下の【グラフ 1】は、営業利益の増減分析を示している。前頁の【表 1】にあるとおり、当上半期の営業利益は前年同期比 6.2%減、27 百万円減益の 418 百万円となった。増収による営業利益の増加分 587 百万円は、低利益率の製品売上高が大幅に拡大したこと(242 百万円の減益効果)や、為替の影響(286 百万円の減益効果)により相殺された。販管費は 7.5%増、86 百万円増の 12 億 35 百万円となり、うち 52 百万円が 4K 映像に対応した H.265 コーデック装置関連の追加開発費用であった。

●【グラフ 1】 営業利益の増減分析



出所：(株)PALTEK の決算説明資料より抜粋

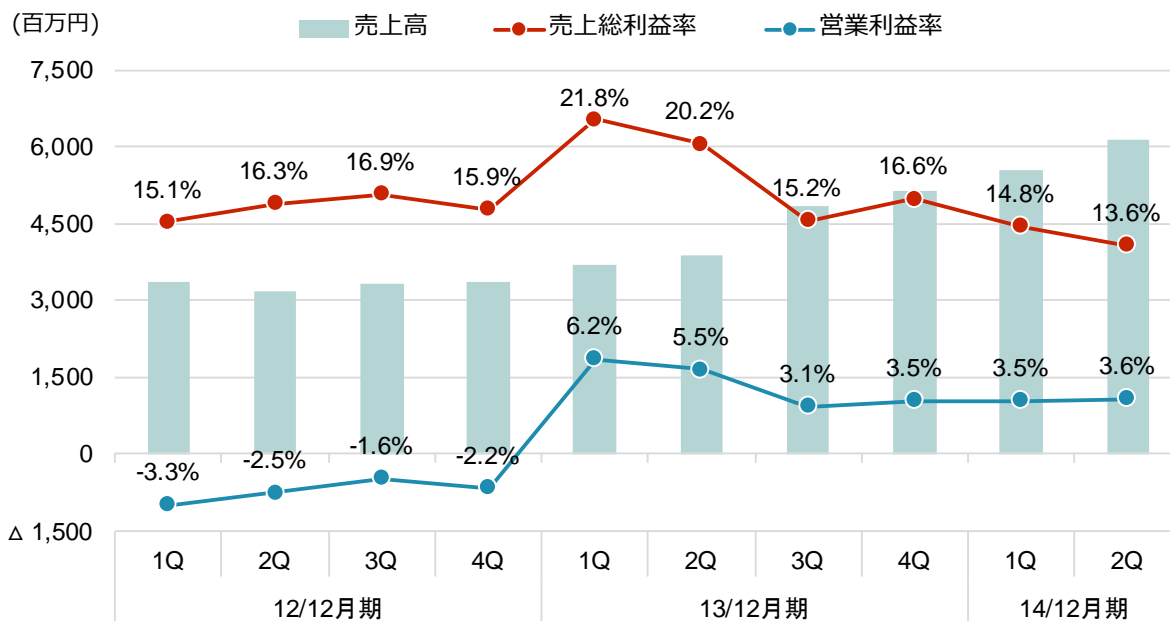
\*注釈：為替変動による仕入値引ドル建債権の評価額の増減

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

留意すべきは、当上半期の販管費は、12億70百万円という当初予想に対し、実績が35百万円下回ったことである。同社によれば、これは、効果的な経費抑制ができたことと、旅費その他の営業費用が予算を下回ったことによる。当上半期の当初予想の営業利益は220百万円だったが、5月8日の1Q決算発表時に330百万円に上方修正されたが、実績は418百万円で、堅調な結果だったといえよう。

下の【グラフ2】は、2Qの営業利益率が1Qの3.5%から3.6%に上昇したことを示しており、為替によるマイナス影響が2Qの方が大きかったことを考慮すると、2Q業績の堅調さがうかがえる。

●【グラフ2】売上高、売上総利益率、営業利益率の四半期推移



出所：(株)PALTEKの決算説明資料より抜粋

経常利益は、前年同期比 13.4%減の 389 百万円となった。主な増減要因としては、NEDO が助成する H.265 コーデック装置開発向け補助金収入 32 百万円が営業外収益に計上された一方、為替差損 33 百万円が計上された。

四半期純利益については、11.7%減の 228 百万円となった。

次頁の【表 3】は当 2Q 末の連結貸借対照表を示している。連結貸借対照表における主な変化は、大幅増収に対応する借入増を背景に、現金及び預金が増加したこと、同様の理由で在庫が増加したこと、その他流動資産が未回収の税還付金の現金化により減少したこと、流動負債が資金調達により拡大したことなどが挙げられる。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

**【表3】2014年12月期2Q末 連結貸借対照表の概要**

(百万円、%)	13/12月期	14/12月期	増減額	14/12月期	増減額
	4Q末	1Q末		2Q末	
現金及び預金	1,198	1,989	791	2,067	869
売上債権	4,562	3,989	△ 572	4,533	△ 29
商品	2,258	2,520	262	3,016	758
その他流動資産	2,261	2,069	△ 192	1,668	△ 592
固定資産	606	585	△ 20	602	△ 4
資産合計	10,886	11,155	268	11,888	1,001
仕入債務	759	703	△ 55	916	157
短期借入金	880	1,230	350	1,230	350
その他流動負債	649	606	△ 43	1,017	367
固定負債	323	318	△ 5	313	△ 10
純資産	8,274	8,296	22	8,410	136
負債・純資産合計	10,886	11,155	268	11,888	1,001

出所：(株) PALTEKの決算説明資料をもとに (株) トリアスにて作成

**【表4】2014年12月期上半期 連結キャッシュフローの概要**

(百万円、%)	13/12月期	14/12月期	13/12月期	14/12月期
	1Q	1Q	上半期	上半期
現金及び現金同等物の期首残高	1,739	1,198	1,739	1,198
営業キャッシュフロー	98	534	△ 148	648
投資キャッシュフロー	24	△ 5	△ 13	△ 24
財務キャッシュフロー	△ 57	256	52	243
現金及び現金同等物の期末残高	1,803	1,989	1,629	2,067

出所：(株) PALTEKの決算説明資料をもとに (株) トリアスにて作成

## 2014年12月期上半期 事業別動向

次頁の【表5】は、事業別売上高の推移を示している。主力の半導体事業は前年同期比57.6%増の110億9百万円となり、売上構成比は91.9%から94.3%に上昇した。

高マージンのデザインサービス事業(粗利率は全体の14%に対し30%超)は、前年同期比で僅か3.9%増の602百万円に留まったが、これは主に、前年同期の売上高に単発の特別プロジェクト数件が含まれていたため、比較ベースが高くなったことによる。半導体事業の大幅増収の結果、デザインサービス事業の売上構成比は7.6%から5.2%に低下した。

スマートエネルギー案件を中心とするその他事業では、数軒の地方病院に非常時のバックアップ電源装置を供給し、売上高は前年同期比78.3%増の66百万円となった。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

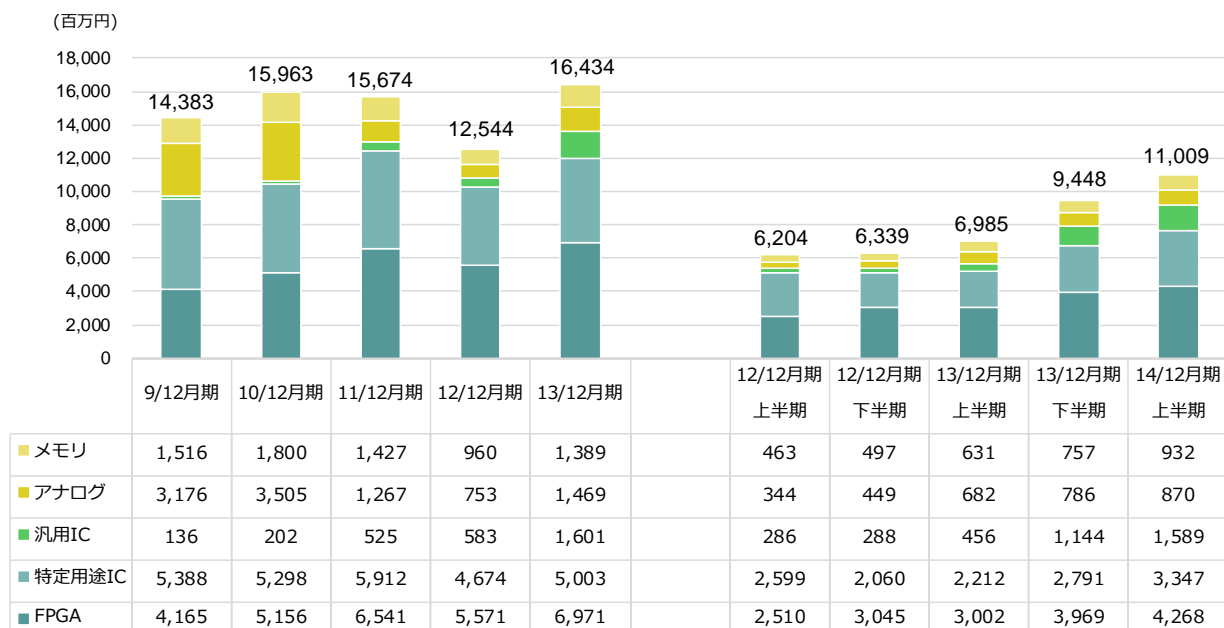
**●【表5】2014年12月期上半期 事業別売上高**

(百万円、%)	13/12月期	14/12月期	13/12月期	14/12月期	13/12月期	14/12月期	前年同期比	
	1Q	1Q	2Q	2Q	上半期	上半期	増減額	増減率
<b>売上高</b>								
半導体	3,301	5,095	3,684	5,913	6,985	11,009	4,023	57.6%
デザインサービス	404	400	175	201	579	602	22	3.9%
その他	2	37	35	28	37	66	28	78.3%
売上高合計	3,707	5,533	3,894	6,144	7,602	11,677	4,074	53.6%
<b>構成比</b>								
半導体	89.0%	92.1%	94.6%	96.2%	91.9%	94.3%	-	-
デザインサービス	10.9%	7.2%	4.5%	3.3%	7.6%	5.2%	-	-
その他	0.1%	0.7%	0.9%	0.5%	0.5%	0.6%	-	-
売上高合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	-	-

出所：(株)PALTEKの決算説明資料をもとに(株)トリアスにて作成

**半導体事業：製品別動向**

半導体事業の製品別売上動向は、下の【グラフ3】にあるとおりだが、FPGA(当2Qより、「PLD」のカテゴリを「FPGA」に名称変更)が前年同期比42.2%増、特定用途IC(ASSP)が同51.3%増、汎用ICが同247.9%増、アナログが同27.5%増、メモリが同47.6%増であった。主力のFPGAは、LTE基地局と通信向け計測機器用途に牽引された。ただし、ここ数年、開発費の拡大と投資回収期間の短縮化を背景に粗利率の低下圧力が強まり、粗利率が低下してきている。また、低マージンの通信機器向け特定用途ICやオフィス機器向け汎用ICの大幅増収も粗利率の悪化を招いた。アナログはファクトリーオートメーション(FA)機器と医療機器用途、メモリはFA機器と民生機器用途に牽引された。

**●【グラフ3】半導体事業 製品別売上高の推移**


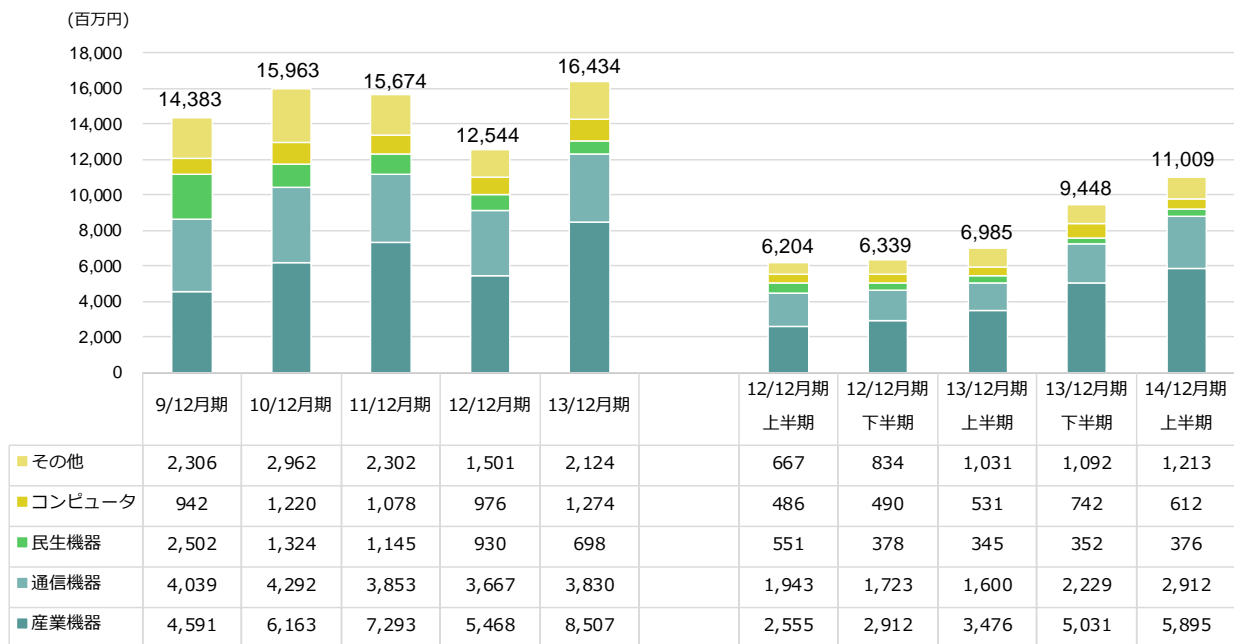
出所：(株)PALTEK 提供データをもとに(株)トリアスにて作成

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

### 半導体事業:用途別動向

半導体事業の用途別売上動向は、下の【グラフ 4】にあるとおりで、産業機器向けが前年同期比 69.6%増、通信機器向けが同 82.0%、民生機器向けが同 8.9%増、コンピュータ向けが同 15.2%増、その他が同 17.6%増であった。産業機器向けは、好調な OA 機器、医療機器、計測機器、FA 機器、放送機器向けが牽引した。一方で、通信機器向けは、好調に推移した LTE 基地局を含む通信インフラとブロードバンド通信機器向けが牽引役となった。

#### ●【グラフ 4】 半導体事業 用途別売上高の推移



出所: (株)PALTEK の開示データをもとに(株)トリアスにて作成

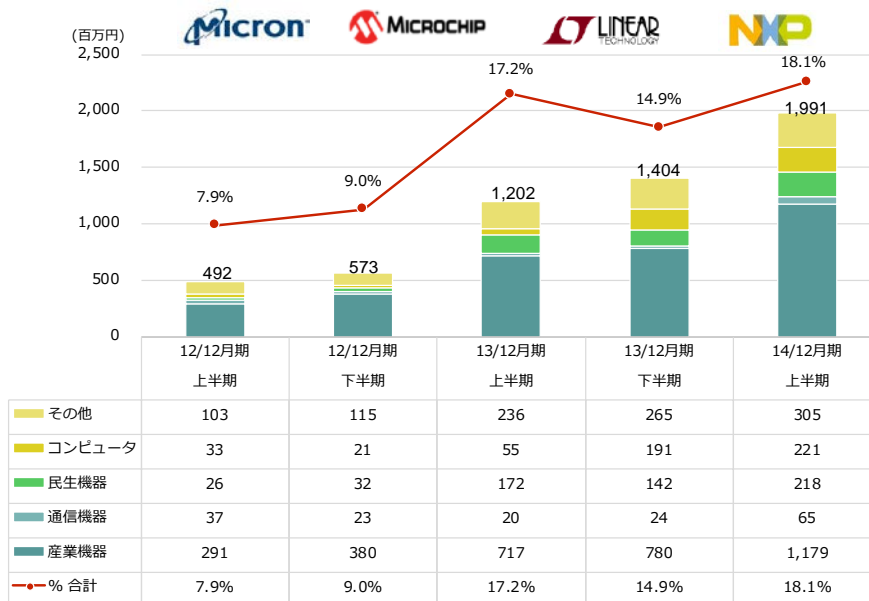
### 半導体事業:第 2 の柱の製品群

次頁の【グラフ 5】は、半導体事業の第 2 の柱である 4 つの新製品売上高の半期ごとの推移を示している。2011 年と 2012 年に集中した新規事業のパートナーとの戦略的な提携(4 件のうち 3 件)は、顧客への情報提供と啓蒙が必要な立上げ期を経たのち、順調に拡大している。当上半期のこの製品群の売上高は前年同期比 65.5%増の 19 億 91 百万円を達成し、半導体事業売上高の 18.1%を占めた。

用途別では、FA 機器、OA 機器、医療機器、ヘルスケア・美容器具、携帯情報端末などの産業機器向け用途の売上構成比が 59.3%となった。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

### ●【グラフ5】 第2つの柱となる4製品売上高の半期推移

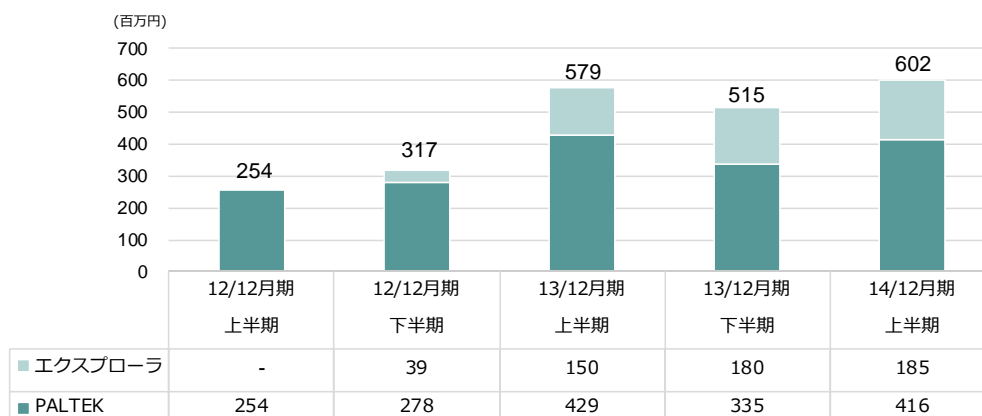


出所：(株)PALTEK 提供データをもとに(株)トリアスにて作成

### デザインサービス事業の動向

下の【グラフ6】にあるとおり、デザインサービス事業の売上高は当上半期、対前年同期で微増にとどまった。これは、前上半期に発生した単発の特別プロジェクトにより、比較ベースが高くなっていったことに加え、4K 対応 H 265 コーデック装置の開発期間を延長したことによる。PALTEK は当初、当 3Q に新製品の販売開始を目指していたが、事前商談で潜在顧客から得た意見を製品開発に反映させるため、販売開始時期を年末にずらした。

### ●【グラフ6】 高マージンなデザインサービス事業の売上高半期推移

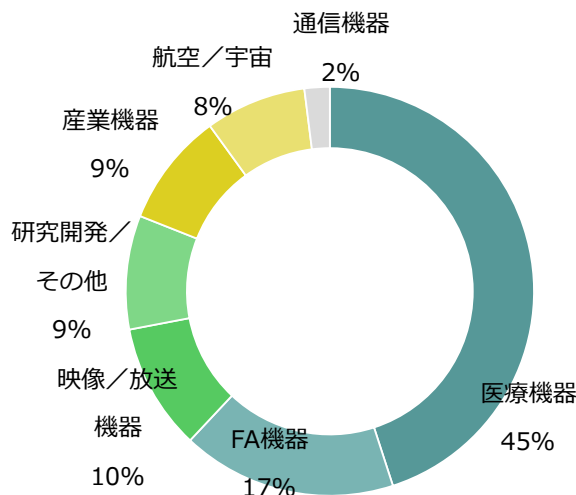


出所：(株)PALTEK 提供データをもとに(株)トリアスにて作成

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

下の【グラフ 7】は、当上半期のデザインサービス事業の用途別売上構成比を示している。特に、次世代内視鏡の開発と MRI/CT スキャナ向けエンジンボードの提供などが追い風となり、医療機器の構成比が拡大している。PALTEK によると、当上半期においては、主に医療機器向け ODM(相手先ブランドによる設計・製造) 売上高がデザインサービス売上高合計の 30%を占めたという。

●【グラフ 7】 2014 年 12 月期上半期 設計受託・ODM の用途別売上構成



出所: (株) PALTEK の決算説明資料より抜粋

## 2014 年 12 月期 連結業績予想の修正

7 月 25 日、PALTEK は、上半期と通期の業績予想を修正した。次頁の【表 6】は、2 月 12 日に発表した期初予想に対するその後の修正の推移を示している。5 月 8 日の 1Q 決算発表と同時に、同社は上半期と通期の業績予想を修正した。LTE 基地局向けの通信インフラ・通信用計測機器の予想以上の好調さと OA 機器向け需要の堅調さを理由に、上半期の売上高が 19.6%上方修正された。低マージン製品の大幅増収が影響して、上半期の予想粗利率が 16.2%から 14.5%に下方修正されたが、大幅増収により売上総利益予想は 7.4%の増益となった。販管費の想定が据え置かれたため、売上総利益の増益 110 百万円がそのまま営業利益の増益につながったことから、上半期予想は 220 百万円から 330 百万円へと上方修正された。

その後 7 月 25 日に同社は、業績予想の 2 度目の上方修正を行った。1Q の好調なトレンドが 2Q に維持され、当上半期の売上高実績は予想を 6.2%上回った。上半期の粗利率実績は 14.2%となった。製品の利益率低下と為替の影響が響き、5 月 8 日の修正予想である 14.5%を下回る結果となった。しかし、売上総利益が予想を 53 百万円上回り、販管費が予想を 35 百万円下回った結果、上半期の営業利益実績 418 百万円は、予想を 26.7%上回った。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。



**●【表6】2014年12月期 業績予想と修正の推移**

(百万円、%)	当初予想 (2月12日付)			修正予想 (5月8日付)		
	14/12月期			14/12月期		
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期
売上高	9,200	9,800	19,000	11,000	11,200	22,200
売上総利益	1,490	1,600	3,090	1,600	1,610	3,210
売上総利益率	16.2%	16.3%	16.3%	14.5%	14.4%	14.5%
販売費及び一般管理費	1,270	1,300	2,570	1,270	1,300	2,570
販管費率	13.8%	13.3%	13.5%	11.5%	11.6%	11.6%
営業利益	220	300	520	330	310	640
営業利益率	2.4%	3.1%	2.7%	3.0%	2.8%	2.9%
経常利益	230	280	510	320	290	610
純利益	145	175	320	190	175	365

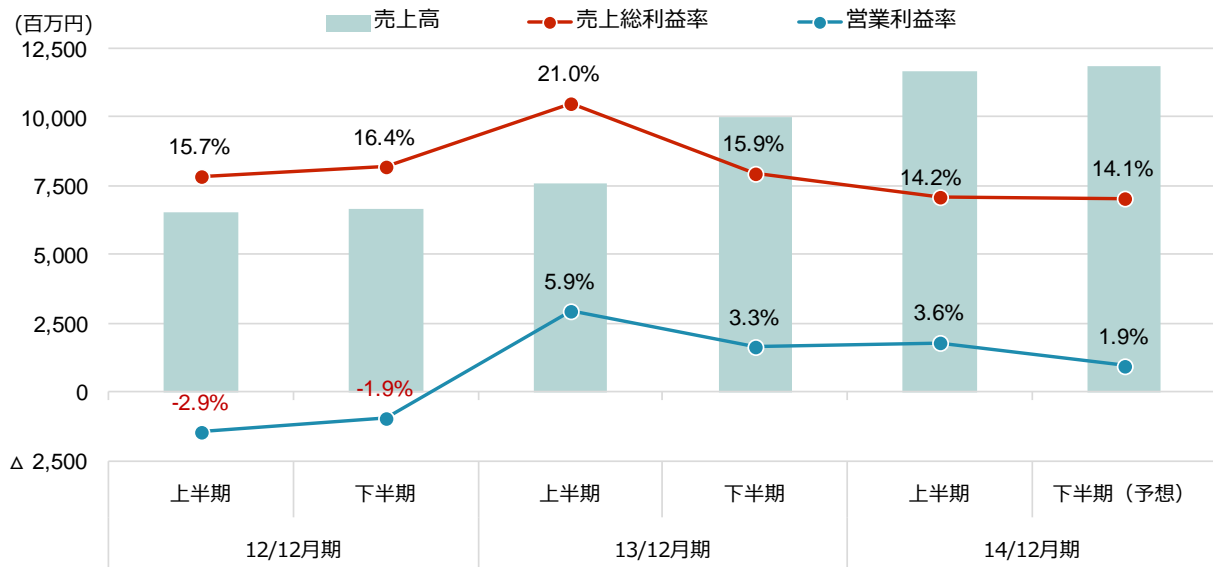
(百万円、%)	修正予想 (7月25日付)			前年同期比 増減率		
	14/12月期			14/12月期		
	上半期実績	下半期	通期	上半期	下半期	通期
売上高	11,677	11,822	23,500	53.6%	18.1%	33.4%
売上総利益	1,653	1,661	3,315	3.7%	4.3%	4.0%
売上総利益率	14.2%	14.1%	14.1%			
販売費及び一般管理費	1,235	1,439	2,675	7.5%	13.7%	10.8%
販管費率	10.6%	12.2%	11.4%			
営業利益	418	221	640	-6.2%	-32.2%	-17.2%
営業利益率	3.6%	1.9%	2.7%			
経常利益	389	270	660	-13.4%	-18.7%	-15.6%
純利益	228	161	390	-11.7%	-12.7%	-12.1%

出所：(株) PALTEKの決算説明資料をもとに(株) トリアスにて作成。数値は(株) PALTEK開示の予想

上半期の好調が続くと期待から、下半期の売上高予想は、5月8日付予想から5.6%上方修正された。粗利率は同じ理由で若干下方修正され、下半期の売上総利益予想は3.2%増とされた。主な変更点として、下半期の販売管理費が13億円から14億39百万円へと10.7%上方修正された。この経費増の主な要因は、次のNEDO助成事業となる超低遅延8K対応HEVC-ECFによるハイブリッド配信装置の開発費用140百万円の予算計上にある。

また、同社は、半導体専門会社のサイミックス株式会社から人感センサー向け信号処理IC事業とMEMS(微小電気機械システム)事業を買収することを決定し、株式会社テクノロジー・イノベーションを新たに設立し、その運営費用25百万円を予算計上している。上半期と同様、下半期の売上高が予想以上の増収となり、売上総利益が予想を上回り、販管費が予想以下に抑制された場合には、3度目の上方修正が行われる可能性がある。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

**【グラフ8】 売上高、粗利率、営業利益率の半期推移、ならびに 14/12 月期下半期の業績予想**


出所: (株)PALTEK の決算説明資料より抜粋

**トピック: 子会社エクスプローラが提案する 8K に対応した HEVC-ECF コーデック(高効率ビデオコーディング-高度コーディング形式)によるハイブリッド配信装置も NEDO のイノベーション実用化ベンチャー支援事業に採択**

2013年5月16日、PALTEK は子会社の(株)エクスプローラ(以下、エクスプローラ)が提案したレート制御機能搭載 4K 対応 H.265 コーデック装置の開発が、NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機)のイノベーション実用化ベンチャー支援事業に採択されたと発表した(H.265/HEVC フォーマットとアプリケーションの詳細と2013年12月開催のPALTEKの説明会の内容をまとめた4K市場の見通しについては、2013年12月期3Q決算概要に関する2014年1月28日付 Trias メモをご参照ください)。約1年後の2014年5月20日、同社は、エクスプローラが提案した超低遅延 8K 対応 HEVC-ECF コーデックによるハイブリッド配信装置は NEDO の実用化開発助成事業に再度選出されたと発表した。

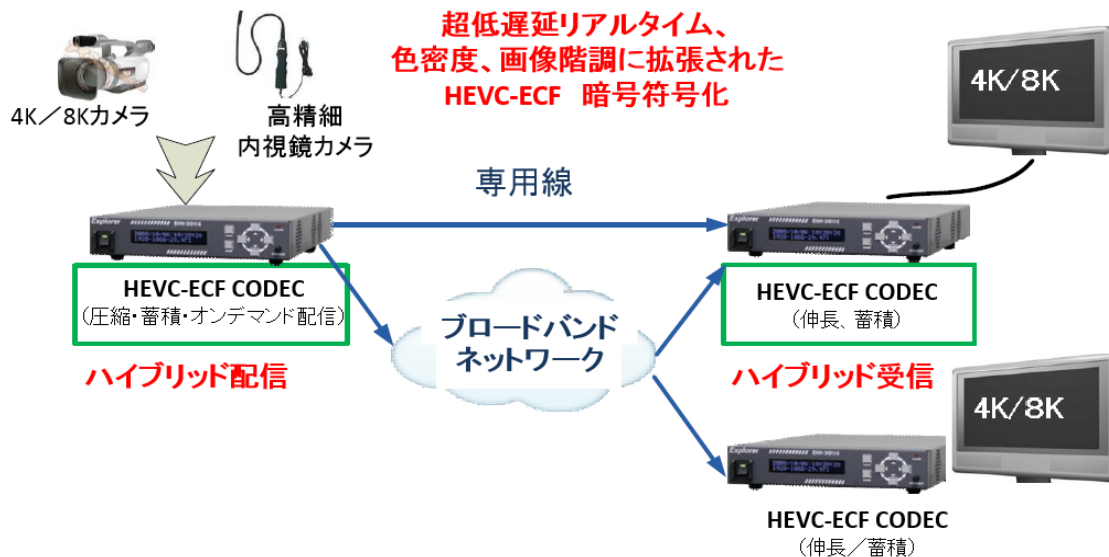
今回の開発期間は2014年5月14日から2015年2月28日で、開発費用の3分の2に相当する助成金が支払われる。4K 対応 HEVC コーデック装置の開発に際して、エクスプローラは総額67百万円(前4Q: 35百万円、当1Q: 32百万円)の助成金を受領した。PALTEK によれば、8K 超高精細映像に対応した HEVC-ECF コーデック装置の実用化には、4K 対応装置の開発を上回る開発費用が必要とされるため、当下半期に140百万円の予算を計上し、当4Qに70百万円の助成金を受領する見込みであるという。

このような自社製品の開発事業は、PALTEK グループの収益性を将来的に高めていく重要な要素となる。エンコーダとデコーダはライブ放送に使用され、デコーダはケーブルテレビのセットトップボックスに搭載される。今夏、ブラジル開催のサッカー・ワールドカップで4Kの試験放送が開始された。将来的なアプリケーションとしては高度遠隔医療システム、高度監視システム等がある。加えて、4K 放送機器用 FPGA・ASSP ならびに

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

技術サポートの提案、次世代医療機器向けのFPGA・ASSPの提案などにおいて、半導体事業とのシナジーも生じよう。デザインサービス事業は既に次世代内視鏡向けの受託設計に取り組んでおり、最先端の遠隔医療システムに対する同社の期待は大きい。

●【図1】NEDOの助成のもと、エクスプローラHEVC-ECFコーデックを活用した8K超高精細対応のハイブリッド映像配信装置を開発中



出所：(株)PALTEK 開示資料より抜粋

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

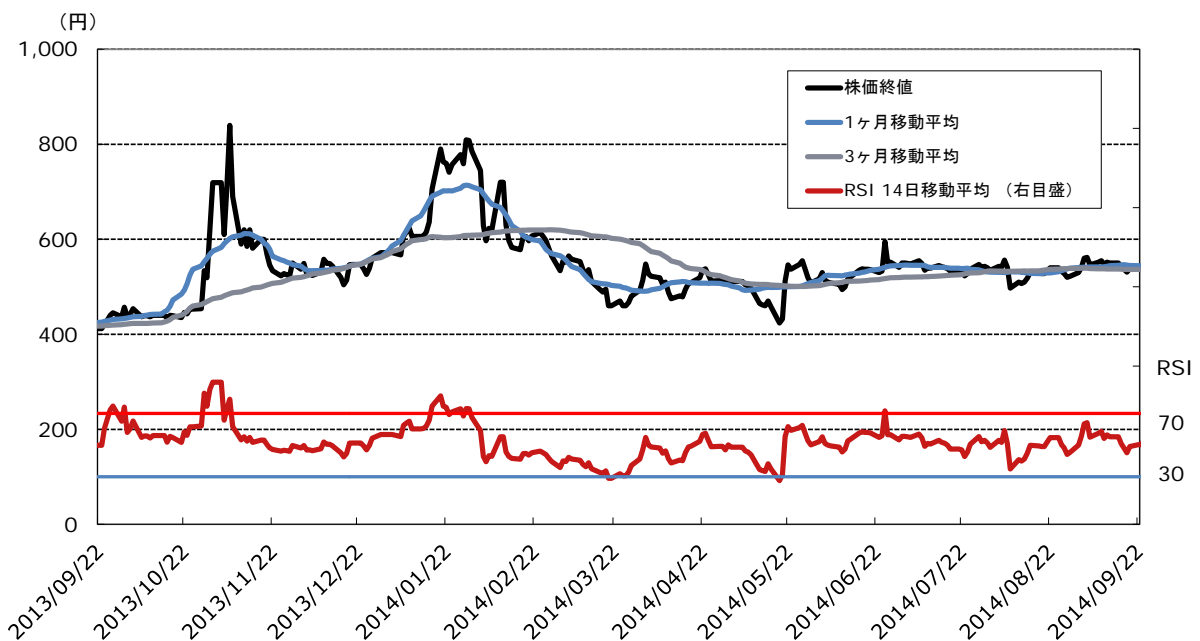
**ご参考**
**● 連結主要指標**

発行済株式数(株)	2014.6月	11,849,899	総資産(百万円)	2014.6月	11,888
うち自己株式数(株)	2014.6月	430,937	自己資本(百万円)	2014.6月	8,410
時価総額(百万円)	2014.9.22	6,399	有利子負債(百万円)	2014.6月	1,230
一株当純資産(円)	2013.12月	724.61	自己資本比率(%)	2014.6月	70.7
ROE(%)	2013.12月	5.5	有利子負債比率(%)	2014.6月	14.6
ROA(%)	2013.12月	4.1	フリーキャッシュフロー(百万円)	2014.6月	623
PER(倍)	2014.12月予	15.8	注: ROE=当期純利益÷期末自己資本		
PCFR(倍)	2014.6月	25.1	ROA=当期純利益÷期末総資産		
PBR(倍)	2013.12月	0.7	PCFR=時価総額/(当期純利益+減価償却費)		
株価(円)	2014.9.22	540	日々平均出来高=過去1年間の平均		
単元株数(株)	2014.9.22	100	有利子負債比率=有利子負債÷自己資本		
日々平均出来高(株)	2014.9.22	73,585	フリーキャッシュフロー(FCF) = 営業CF+投資CF		

**● 連結業績の推移**

連結(百万円)	売上高	営業利益	経常利益	純利益	1株益(円)	1株配(円)
2010年12月期	16,499	322	448	238	20.84	7.00
2011年12月期	16,367	221	198	48	4.22	5.00
2012年12月期	13,231	△317	△185	△106	△9.33	5.00
2013年12月期	17,611	772	782	443	38.86	8.00
2014年12月期上半期	11,677	418	389	228	19.99	-
予2014年12月期	23,500	640	660	390	34.15	8.00

注 2014年12月期予想は、2014年8月6日発表の会社予想

**● 株価チャートとRSI**


出所: BloombergのデータをもとにTrias作成

注: RSI(Relative Strength Index)とは株価の「買われ過ぎ」や「売られ過ぎ」を指数で表したものである。一般的にRSIが70を超えると高値圏、30以下では安値圏に位置していると言われている

$$RSI = \frac{N日間の値上がり幅平均}{(N日間の値上がり幅平均 + N日間の値下がり幅平均)} \times 100$$

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。